

検討会の進め方

検討会の進め方

<基本的な進め方>

- ・行政施策への反映の可能性が高い課題を優先的に議論
- ・課題の数が多く、また、進捗状況も異なることから、議論の充実のため各年度2回程度 検討会を開催

令和元年度	令和元年12月9日	現地調査会・意見交換会	
	令和2年1月8日	第1回検討会	(顕在化・増加の恐れがある土砂移動現象、今後の検討の方向性の整理)
	令和2年3月	意見聴取	
令和2年度	令和2年5月21日	第2回検討会	
	6月	中間とりまとめ	公表 ⇒ 以降、中間とりまとめに基づく調査・研究を開始
	令和3年2月10日	意見聴取	
	3月5日	第3回検討会	研究・技術開発の進め方、行政施策への反映の方向性の整理
令和3年度	令和4年1月6日	第4回検討会	土砂・洪水氾濫により大きな被害のおそれのある流域の抽出方法について議論
令和4年度	令和4年4月22日	第5回検討会	土砂・洪水氾濫により大きな被害のおそれのある流域の調査要領について 過去の土砂災害における降雨量と生産土砂量の関係分析について
	令和5年3月8日	第6回検討会	過去に発生した崩壊性地すべりの特徴等について 土砂・洪水氾濫時に流出する流木への対策に関する基本的な考え方について

令和5年度	令和5年8月10日	第7回検討会	<ul style="list-style-type: none">・崩壊性地すべりの事例集(案)及び解説資料について・土砂・洪水氾濫時に流出する流木への対策に関する基本的な考え方(試行版)(案)について・気候変動に対応した砂防計画検討の方向性について・気候変動を踏まえた砂防技術検討会 とりまとめ骨子(案)について
-------	-----------	--------	---

令和5年12月頃目処 第8回検討会

- ・気候変動を踏まえた砂防技術検討会 とりまとめ(予定)

「気候変動を踏まえた砂防技術検討会中間とりまとめ」を踏まえた研究・技術開発課題への取組

取組期間: 赤(1年程度)、青(2年~4年)
黒(長期的課題)

①気候変動に伴う地域毎の降雨特性の変化に応じて頻発化もしくは新たに顕在化する恐れのある土砂移動現象とその発生頻度の推定		アウトプット・行政施策への反映のイメージ
取組内容		
1.土砂移動現象を引き起こす降雨パターンの変化の把握・類型化	<ul style="list-style-type: none"> ・スネークラインのCL超過回数を指標とした気候変動による降雨特性変化に伴う土砂災害リスク地域別変化 ・気候変動による集中豪雨等の降雨特性変化 	将来の地域別リスクの変化→警戒避難情報提供の高度化
2.土砂移動現象・降雨特性・地質地形の関係分析に基づく、地域毎に顕在化・頻発化する土砂移動現象の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な土砂災害の土砂移動形態、素因、誘因等の諸元の整理、土砂移動現象毎の支配的な素因・誘因の特性分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・素因と土砂移動形態の関係把握 ・降雨と土砂移動形態の関係把握 将来の地域別リスクの変化→警戒避難情報提供の高度化
②気候変動に伴い顕在化してきた土砂移動現象の発生蓋然性の高い箇所解明		
1.生産土砂量・下流への土砂の流出しやすさを評価した土砂・洪水氾濫危険流域抽出手法の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・既往の土砂・洪水氾濫の土砂移動・被災実態整理、コネクティビティ評価等に基づく、土砂・洪水氾濫危険流域・区域の抽出手法検討 ・土砂・洪水氾濫被害想定・施設配置計画手法高度化 	土砂・洪水氾濫のおそれのある流域の抽出、土砂・洪水氾濫危険流域危険度評価、被害想定高度化
2.土砂流出に係る数値解析手法の高度化	<ul style="list-style-type: none"> ・豪雨時の細粒土砂の挙動を考慮した掃流状集合流動区間の土砂動態解析手法の検討 	土砂動態解析手法高度化
3.流域スケールの土砂動態モデリング	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチスケール流域土砂動態モデルの開発と動的土砂災害対策への応用 	流域土砂動態モデルの開発
4.崩壊性地すべり、谷地形が不明瞭な箇所での土石流の発生危険箇所抽出手法の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・(崩壊性地すべり) ・集水面積・傾斜等の地形、降下火砕堆積物等の地質に着目した発生箇所の類型化 ・(谷地形が不明瞭な箇所での土石流) ・発生場の特徴に関する現地の詳細調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・崩壊性地すべりの危険箇所抽出手法 ・谷地形が不明瞭な箇所での土石流の危険箇所抽出手法
③気候変動に伴う降雨特性の変化に応じた生産土砂量の応答特性の解明		
1.数値シミュレーション・物理モデルによる生産土砂量の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・土層生成速度、樹木根系の効果を含む斜面せん断強度、間隙水圧変化を考慮した流域生産土砂量予測 	生産土砂量の予測高度化
2.過去の土砂災害における降雨量と生産土砂量の関係分析	<ul style="list-style-type: none"> ・西日本豪雨における崩壊・土石流に関する降雨量と生産土砂量の関係分析 ・既往の降雨量と生産土砂量関係分析結果・手法整理 	降雨量と生産土砂量の関係式→砂防計画等で土砂量等の見直し